

びろっば

Vol. 446 2023. 9

公開 県民講座 開催

表紙の写真



腎臓内科・人工透析内科 3人体制へ
全内視鏡下脊椎手術 100例達成！
日本内科学会四国地方会 主催

近森病院 近森リハビリテーション病院 近森オルソリハビリテーション病院 からのお知らせ

11月23日(木)は通常診療を行います。

腎臓内科・人工透析内科 3人体制へ



中央：吉村部長（筆者）、向かって左隣：澤村医師、右隣：宇都宮医師

新しい仲間を迎えて

近森病院 腎臓内科・人工透析内科 吉村 和修
腎透析センター・臨床工学部 部長 よしむら かずのぶ

3人体制で頑張っています！

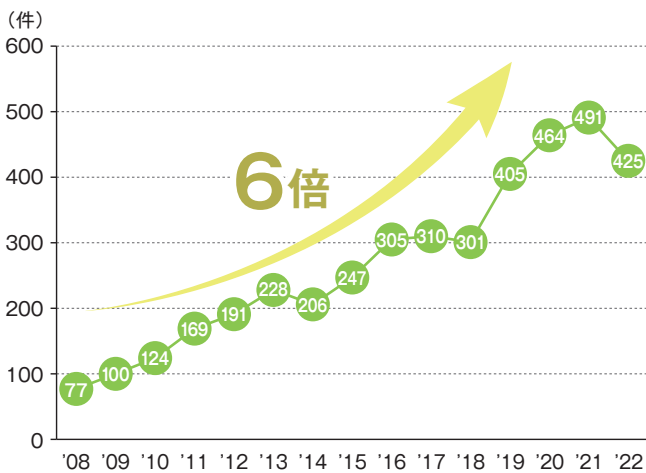
当院の腎臓内科は、2017年より一時休止しつつも、透析部門は継続していました。そして、2020年4月に腎臓内科の診療を再開。さらに今年からは宇都宮慧医師という新たな仲間を迎えることができました。宇都宮医師は、10年間東京の日本大学医学部附属板橋病院で腎臓内科医として研鑽を積み、腎臓専門医・透析専門医の資格も取得済みの即戦力です。

腎生検を活用し的確な診断、適切な治療を

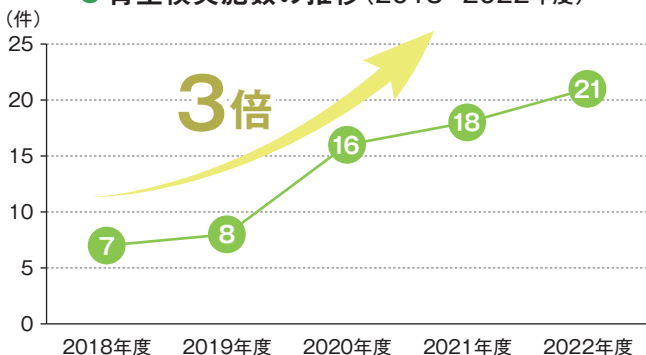
当科では、慢性腎炎やネフローゼ症候群などの腎臓疾患を的確に診断し、適切な治療を行うために腎生検を積極的に活用しています。腎生検とは、超音波で確認しながら細い針を用いて腎臓の一部を採取し、腎臓でどのような病態が起こっているか正確に診断する方法です。腎生検によって腎臓の組織を詳細に観察し、病変の原因や進行度を把握できます。それに基づいて、個々の患者さんに合った治療法を提案しています。



● 透析患者 紹介受入件数の推移 (2008~2022年)



● 腎生検実施数の推移 (2018~2022年度)



生活スタイル、環境、意向を考慮して最適な方法を検討します

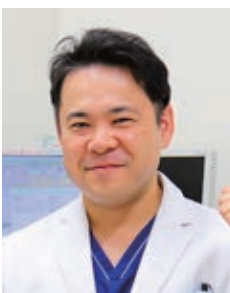
薬物療法や透析治療など、多岐にわたる治療を行っており、末期腎不全の療法選択にも力を入れています。透析治療（血液透析や腹膜透析）や腎臓移植は、末期腎不全の治療において重要な選択肢ですが、それぞれにメリットとデメリットがあります。私たちは、患者さんの生活スタイル、家族のサポート環境、治療に対する意向などを考慮し、最適な方法を共に検討していきます。

なお、腎臓移植については当院では施行していませんので、必要な方は適切な施設にご紹介させていただく形をとっています。

最善の医療ケアの提供を

宇都宮医師の加入により、より高度な医療が提供できることを願い、患者さんの健康を全力でサポートしています。近森病院腎臓内科・人工透析内科は、患者さんとのコミュニケーションを重視し、信頼と安心を大切にし、専門知識と技術を活かして最善の医療ケアの提供を目指しています。どんなことでもお気軽に相談してください。

全内視鏡下 脊椎手術 100例達成!



近森病院 整形外科 部長 井ノ口 崇 いのくち たかし

みなさん、こんにちは 整形外科 井ノ口崇です

2023年7月4日、全内視鏡下脊椎手術、100例達成しました!
全内視鏡下脊椎手術は、腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症や一部の慢性腰痛症の患者さんに適用される、8mmの皮膚切開から局所麻酔下に安全に行うことができる、患者さんに優しい手術です。

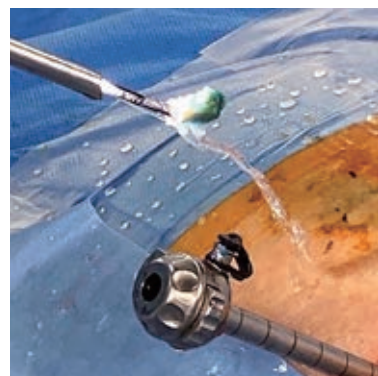
1年3ヵ月で達成

皆様のご協力を得て2022年4月に導入し、約1年3ヵ月での達成となりました。支えてくださるスタッフに心から感謝いたします。難しい手術も多々ありましたが、迷いが生じるたび師匠である徳島大学の西良教授との手術を思い出し、お師匠ならどうするだろうか、あの時どうしていただろうか、と思い返しながら前に進んでいます。

一緒につらさを解決する方法を考えます

先日の公開県民講座において、この手術について発表する機会を頂きました。ご参加くださいました方々の反応から、この手術の大きな‘みらい’を感じることができました。

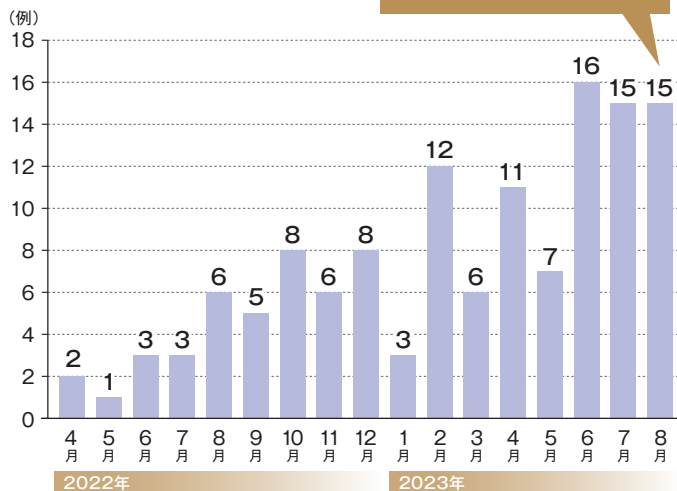
これからも、困っている方と真摯に向き合って、一緒につらさを解決する方法を考え、できるだけ優しい手術で痛みが楽になり、喜びを分かち合う、そういった気持ちに寄り添う脊椎内視鏡外科医を目標にしていきたいと思います。今後ともよろしくお願い致します。



内視鏡でヘルニアを摘出したところ。

● 全内視鏡下脊椎手術 月次症例数

2023年
8月時点 **127例**



手術の詳細は
こちらをチェック!



井ノ口部長「100例達成を記念して、いつもお世話になっている手術室看護師さんとともに。」

学会開催

第128回 日本内科学会 四国地方会
第68回 四国支部生涯教育講演会

現地開催の良さと
当院の活気が感じられた
学会

主催会長／近森病院 院長 兼 循環器内科 川井 和哉
かわい かずや

民間病院が主催会長を

日本内科学会の主催会長を民間病院の医師が担当することはあまり多くはありません。近森病院では、2011年の浜重直久前副院長に続いて、私が2人目の主催会長であり光栄なことだと思います。

教育セミナーは循環器内科部長の窪川渉一が世話人として、CPC（臨床病理検討会）と女性医師の会と合同企画の講演をおこないました。

4年ぶりの現地開催、400名超の参加が

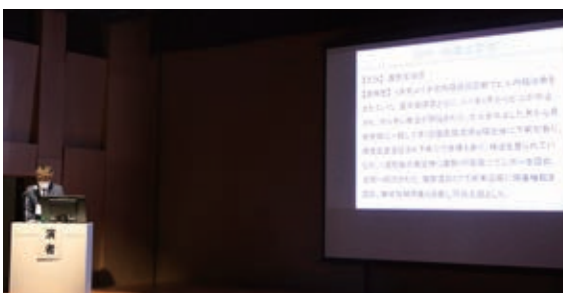
コロナ禍でWebやハイブリッド開催が多かったのですが、コロナも5類となり今回は4年ぶりに現地開催としました。400名を超える参加があり、活発な討議や顔の見える交流がおこなわれました。当院からもたくさんの演題発表があり、2人の研修医が奨励賞を受賞しました（来月号以降に紹介予定）。現地開催の良さと近森病院の活気を改めて感じた学会でした。



左／座長の北岡科長
右／窪川部長
他、浅羽部長も座長を務めた。

四国地方会は102演題登録、生涯教育講演会は5講演開催。かるぼーとの2階と7階の計6会場に分かれ、プログラムをみっちり詰め込んだ充実の学会。

2023年7月23日
高知市文化プラザ
かるぼーと



研修医の発表している様子。研修医5名も演者として参加。1年目にとっては、大きな学会での発表は初めて。緊張しつつも、今後の初期研修において実りある経験となりました。



出張

チャレンジを厭わず、
自分たちが変えていくマインドを

診療支援部 部長 兼 企画課 課長
山崎 啓嗣 やまさき ひろつぐ

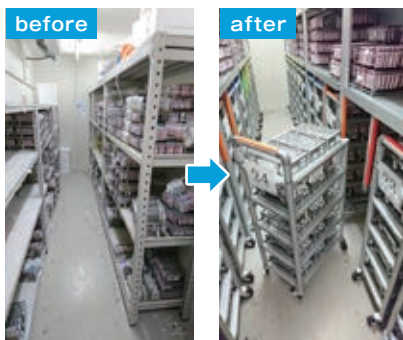
近森病院にプランチラボ(院内常駐の一般血液検査等の委託)で協力いただいている株式会社エスアールエル(H.U.グループ)の中核施設を見学してきました。昨年1月に東京都あきる野市に新設された「AkirunoCube」の愛称を持つセントラルラボで、広大な土地に4つの建物が中庭を囲む形で配置されており、機能分化と連携がイメージされたような施設でした。

世界最大規模の全自動化ライン

最も大きな検査ラボ棟では、端から端が視界に納まりきらないほど広い建屋に、自動化ラインが組み上がっており、清潔感ある真っ白な内部は、わずかな職員のみで、その間をロボットが忙しく動き回っていました。廊下を自走するロボットとすれ違った際、職員の皆さんが気にも留めていないのが印象的で、ロボットとの共働が当たり前のような様子でした。

全方位的に課題を改善するものづくりチーム

検査オペレーションにおいては集約、効率化、労働環境の改善や、がんゲノム領域、再生医療といった先端的医療への取り組みも紹介いただきましたが、個人的に面白かったのは「ものづくりチーム」でした。研究開発員120名のうち10名ほどで構成されているそうで、大小問わず各現場の課題を改善されており、部屋には顕微鏡や検査機器でなく、金属フレームや工具類が揃っており3Dプリンターなども駆使して大工仕事のように、ものづくりをされていました。時には、アプリ開発までこなされるそうで現場の作業時間短縮、安全性向上など「あったらいいな」を形にする全方位的な取り組みは頷く内容ばかりでした。



台車でそのまま格納できるよう効率化。



開発されたロボットハンドによるシャーレ移動の様子。(職員の作業工数削減)

不便、不足を第三者視点で変えていくマインド

当院においてもそうですが、日常業務・作業工程では、各職員が何かしらの不便さや不足を感じることがあります。そこから一歩進んで「自分だったらこうするのに」、「こうしたらどうか?」とアイデアの種のようなものを考えることが大切だと思いますが、業務に忙殺されて具体的な提案に繋げられないことの方が多いように思います。その点、ものづくりチームは第三者的に介入することで気付きを得、チャレンジを厭わず、自分たちが変えていくマインドをお持ちで成果を生み続けているようでした。

エース級の職員1人が華々しく進めるとか、画期的な改善というよりも多くのスタッフがそれぞれの得意分野を活かしアイデアを持ち寄って積み上げていく様子は、チーム医療とも通ずるように思いました。

貴重な機会をいただきお忙しい中、ご案内いただいたH.U.グループの皆さまに心より感謝申し上げます。



当院からは院長、看護部長、管理部長、臨床検査部技師長代理、筆者の5名が訪問。

東京ドーム約3個分の敷地で1日最大30万件の検査が可能。



株式会社
エスアールエルの
中核施設の見学

2023年7月4日 / 東京都あきる野市

論文掲載

分かりやすいビデオ論文作成にこだわりました

近森病院 消化器内科 矢野 慶太郎 やの けいたろう

論文のほか、
学会発表、ウェブセミナー講師など、
多方面で頑張っています!!

論文名 | Low-pressure endoscopy using the gel immersion method facilitates endoscopic reduction of a Morgagni hernia

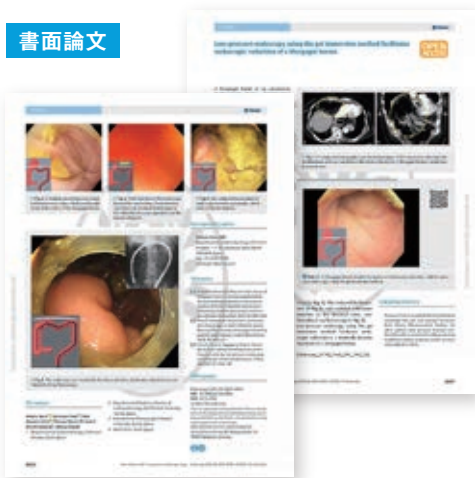


掲載誌 | Endoscopy 2023; 55(S 01): E837-E838

閲覧はこちらから ↑

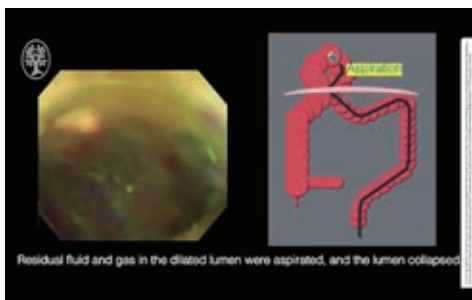


書面論文



↓ 分かりやすくするために
動画に変換

ビデオ論文



空気や水ではなく透明なgelを注入し、
内視鏡視野を改善するgel immersion法

透明なgelを消化管へ注入することで内視鏡視野が改善するgel immersion法ですが、腸管内圧を低く保った状態で内視鏡を挿入できる(低圧内視鏡)というメリットもあります。この視野確保と低圧内視鏡によって消化管疾患の治療選択肢が広がり、2020年以降に様々な症例でgel immersion法が有用であったと報告されています。

横隔膜ヘルニアによる腸閉塞への使用が功を奏す

そんな中で横隔膜ヘルニアによる腸閉塞の症例と出会いました。基本的には横隔膜ヘルニアの治療は外科的手術とされていますが、特に高齢であったり、心臓や肺などの併存疾患のある方にとっては低侵襲の治療が望ましいです。

そこで、gel immersion法を使えば低侵襲かつ安全にヘルニアを整復できるのではないかと考え、大腸内視鏡で整復を試みました。その結果、無事に整復することができ腸閉塞も改善しました。

「世界初症例」を読み手に伝わりやすくするためのビデオ論文

gel immersion法で横隔膜ヘルニアを整復した報告はこれまで無く、大袈裟ですが「世界初症例」ということもあり、英語論文の作成に取りかかりました。「世界初症例」であるが故に、いかに分かりやすい論文にするか悩みました。内視鏡手技における工夫についての論文であり言語化が難しく、しかも不慣れな英語のみで読み手に理解してもらうのは不可能だと思い、自作のアニメーション動画を駆使してビデオ形式で解説することにしました。

動画作成に時間を要したほか、投稿作業も不慣れな英語であったので苦戦しましたが、満足のいくビデオ論文が完成しました。本症例については、内視鏡学会、ウェブセミナーでも発表しましたが、今後も新たな発見があれば積極的に発信していきたいです。

9/1は
防災の日

オルソ災害新聞 を発行しています

近森オルソリハビリテーション病院 災害対策委員会

オルソ病院では、2023年2月より災害新聞の発行を開始しました。

災害対策委員会のスタッフだけではなく、院内の全職員が災害対策に関する取り組みなどを知り、考えるためのツールとして活用しています。

購入した備蓄食や災害物品の紹介、訓練の実施報告、EMIS入力やクロノロジーとは?など様々な情報を共有していきたいと思えます。

オルソ内の各部署のほか、オルソ職員食堂に掲示しています。ぜひ一読ください。

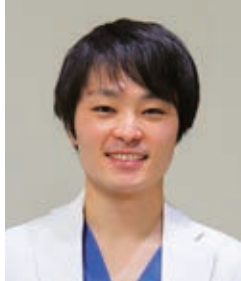
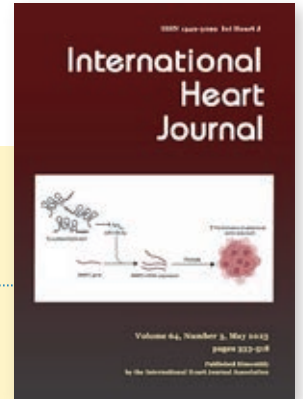


論文掲載

初めての論文投稿

近森病院 循環器内科
山口 宗祥 やまぐち ひろよし

閲覧は
こちらから →



論文名

Intracardiac Thrombosis and Systemic Embolism
in a Patient with Cardiac Amyloidosis in Sinus
Rhythm

掲載誌

International Heart Journal
2023年5月31日発行、64巻3号
(編集・発行／一般社団法人 インターナショナル・ハート・ジャーナル刊行会)

この度は土居先生に長期間に渡りご指導をいただき、International Heart Journalに私の初めての論文が掲載されました。本論文は米国心臓病学会などでも提示をさせていただいた症例を論文化したものでした。

口頭発表から論文への道

当初は学会の発表内容を整理すればある程度の形にはなるものかと思っていたのですが、すぐに自分の考えが甘すぎたことに気付かされました。学会発表前も必要な文献には多数目を通してから臨んだのですが、論文となるとそれだけでは全く足りず、追加で文献を読んだり、読んだ論

文の内容を追加で言語化する必要がありました。また図表についてもさらに見やすくわかりやすいように修正し、再検討する必要がありました。

学びを実臨床に生かす努力

結局、土居先生に最初の学会発表をご指導いただいてから2年の月日を経て、やっと掲載に至りました。ずいぶん長い月日がかかってしまいましたが、本症例を入念に振り返り、さらに多数の文献を読むことで様々な学びを得ることができました。

これを機に今後も学会発表だけでなく、論文制作を積極的に行くと同時に、学んだことを実臨床に生かすことができるよう、努力しようと思います。

指導医
コメント

学術担当顧問
土居 義典 どい
よしのり



この論文は、心アミロイドーシスでは洞調律であっても、アミロイドの心房浸潤により左房の収縮機能が失われて左房内の血栓形成、さらに全身の血栓塞栓症のリスクが高くなる場合があり、抗凝固療法を考慮することが必要となることを示した貴重な報告です。

米国心臓病学会への演題応募の準備段階から学会での発表、論文の完成・掲載まで、忍耐強く取り組んだ山口先生の努力を高く評価します。この経験を今後の学術活動にも生かしてほしいと思います。

第9
回 心臓血管
ウェットラボ

2023年 11/26 (日)
9:00~16:00

会場／近森病院 管理棟3階 大会議室

テーマ 心臓の解剖と心臓血管治療

実習項目
(予定) 解剖全般・病理・PCI・心エコー検査・アブレーション
大動脈ステントグラフト・冠動脈バイパス術・人工弁置換術
経カテーテル大動脈弁置換術(TAVI) など

申込期間 ~10/16(月) 正午まで

※応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。

https://www.chikamori.com/news/asset/184_20230518.pdf

申込は
こちらから →



歳時記 よさこい演舞

@近森病院
(8月10日)



チーム「祭三代・IKU!」さんが近森病院でよさこいを踊っていただきました。天候が不安定な中、雨上がりを狙っていざ開演! 明るくパワフルな踊りに、元気をもらいました。「祭三代・IKU!」さんに当院スタッフも数名参加しており、来月号には踊り子さんの体験記を掲載予定です、どうぞお楽しみに!



学会受賞

第62回 日本血液学会中国四国地方会
若手奨励賞(品川賞)受賞

演題 | Ferroportin disease
例の妊娠から出産時の鉄代謝管理



初めての受賞 今後の糧に

初期研修医 2年目 高本 琴子
たかもと ことこ



今回、初めて奨励賞をいただきました。
高知大学の血液内科研修中に経験させていただいた症例で、非常に珍しい疾患のため、英語の論文を読みながら理解を深めていくのは簡単ではありませんでした。しかし、血液内科の先生方にご指導いただき、議論しながら考察を進めていくことで様々なことに興味を持って、自ら調べる習慣ができました。
これからの臨床現場でも探求心を忘れずに一つ一つの症例に真摯に向き合っていきたいと思います。高知大学の先生方、ご指導頂きありがとうございました。

◀ 同期の城初期研修医(左)と一緒に。

第119回 日本消化器病学会四国支部例会
日本消化器病学会研修医奨励賞
受賞

演題 | COVID-19罹患後に
発症した自律神経障害
を伴う慢性偽性腸閉塞
症の1例



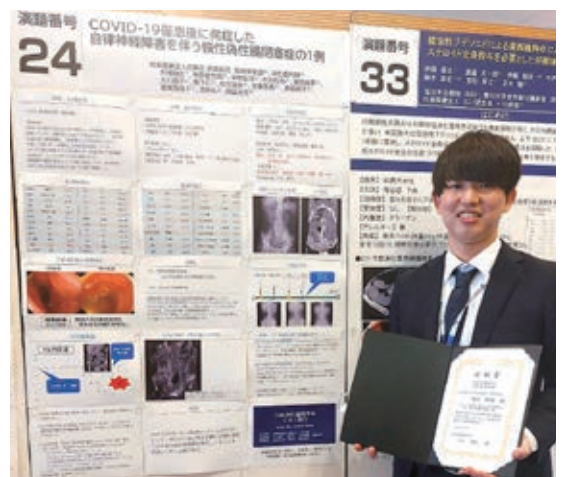
2年連続受賞しました!

初期研修医 2年目 木村 和俊 きむら まさたか

昨年に引き続き、今年もこの賞を受賞させていただきました。
今回の症例は近年に病態解明が進んできた疾患であり、文献検索には苦労しましたが受賞できてよかったです。
受賞することができたのも、消化器内科の先生方のご指導あってのことだと思います。
今後も学会発表と日々の臨床に取り組んでいきたいと思っています。



◀ 左から、筆者、消化器内科 矢野医師、岡田主任部長、榮枝部長。



今月の
ちかもり食

— エムサービス 株式会社 —



七夕の日 7月7日(金)

天婦羅、七夕そうめん、酢の物やデザートを提供しました。
七夕の日を食事でも感じていただこうと、天の川をイメージしたそうめんです。緑のオクラを使用し、黄色の錦糸卵や星形の人参を彩りよくのせました。
酢の物は、みょうがや大葉でさっぱりと仕上げました。

近森病院 外来センター 8階

医局リニューアル

座席不足解消と、
各科コミュニケーション
充実のために

診療支援部
施設用度課 課長
宮下 公将
みやした まさゆき



今回のリニューアルのコンセプトとして、医師数増加による座席不足の解消と「各科の一体感とコミュニケーションがはかれる医局」が掲げられていました。

各科の先生方と度重なる協議をし、個々の座席は確保（机増設）。スペース捻出のため会議室1室を座席エリアに変更しました。（写真①）

また、独立していた整形外科医局エリアを今回で統合。広いエリアにすべての外科系診療科の医員席を用意すると同時に、視界を遮っていたキャビネットを低層化し、医局全体を見通せるようにしています。（写真②）

スペースの制約により叶えられないご要望も多い中、先生方や秘書さんには多くの調整、引越し作業にご協力いただきました。この場をお借りしあらためて御礼申し上げます。



● 写真① 新旧を同じ画角から（奥の窓が同じ位置にくるよう）撮影。



● 写真② 間仕切りを無くし、棚を低層化したことで開放感のある空間に。



近森会グループで元気に働く仲間を紹介します

ハッスル研修医

きっかけは馬路村、理想の医師を目指して

初期研修医1年目 佐々木 康介 ささき こうすけ

医師となり、近森病院での初期臨床研修は早くも5カ月が経ちました。忙しくも新鮮で刺激的な日々を過ごしています。実際の臨床現場は、教科書通りの症例はほとんどなく、複数の疾患を抱える病態が複雑な方や、急変のリスクが高い方など常に緊張感があり、自分の無力さを感じる毎日です。

私は一度大学を卒業した後、ゆずが有名な高知県の馬路村で農協職員として就職し、実際に馬路村で暮らす中で地域医療の現状について身をもって知り、一念発起して医師を志しました。将来はこういった地域で活躍できる救急・総合診療医を目指しているため、近森病院ならではのチーム医療を学び、医師以外の知識や技術も積極的に身につけたいと考えています。

まだまだ知識・技術ともに未熟ではありますが、理想の医師像を目指し、引き続き自己研鑽に励みたいと思います。



3年ぶり開催
第23回

公開県民講座

7/23日
かるぽーと 大ホール

3年ぶりに開催された近森病院の公開県民講座が盛会裏に終了しました。医師・看護師ら9名が登場し、ここ数年の新たな治療法や医療の進歩について熱心に語りました。当日は約340名の県民の皆さんが会場に集まり、休憩時間には司会、坂野さんのアコーディオン演奏もありつつ、知識と楽しさが交わるひとときとなりました。猛暑の中、多くのご参加、心より感謝申し上げます。



司会は、近森会副理事長 入江博之と、坂野志麻さん。

テーマ / コロナの間に進んだ医療

講師陣

**再生医療で
キズを治す！
PRP療法**
杉田 直哉
(形成外科部長)

**どこまでできる、
膵癌の早期診断**
大川 良洋
(消化器内科科長)

**先生と
話しながら治す！
腰の内視鏡手術!!**
井ノ口 崇
(整形外科部長)

**令和版
ナースのお仕事
看護師ができるように
なった医師の仕事**
山中 京子
(ICU病棟看護師長)

**心房細動の
カテーテル治療**
中岡 洋子
(循環器内科科長)※

**心臓治療でできる
脳梗塞予防**
細田 勇人
(循環器内科科長)

**脳血栓を取る！
カテーテル治療**
西本 陽央
(脳神経外科科長)

**僧帽弁の
カテーテル治療**
菅根 裕紀
(循環器内科科長)

**大動脈弁の
カテーテル治療
バージョンアップ!**
田井 龍太
(心臓血管外科科長)

医療の進歩に驚きの連続

司会 /
アコーディオン奏者
坂野 志麻 さん
さかの しま



7月の公開県民講座に司会と演奏で初参加させていただきました。

医療についての知識が乏しい私にとって知らない言葉や難しい漢字が出てきたりと、ドキドキの司会でしたが、講座の内容はイラストや写真や動画を使ってとても分かりやすく、医療の進歩に驚きの連続でした。

私はアコーディオン奏者で、活動を続けるには健康でいることが第一。練習も大事ですが、それよりもしっかり食べて寝て、体と心のコンディションを整えることに気をつけているつもりです。

しかし、気をつけていても病気や怪我で苦しむこともあるかもしれません。そのときは先生方、最先端の医療技術でどうぞよろしく願いいたします。そして、医療が日々進歩しているように、私も日々精進してまいります!



※「心房細動のカテーテル治療」の演者は三戸森児(循環器内科科長)の予定でしたが、当日急遽、中岡に交代。



同日、日本内科学会四国地方会の主催会長を務めたため、会場にいなかった、近森病院 川井院長からのビデオメッセージ。

第23回 公開県民講座





脳卒中、手を伸ばしてチェック。



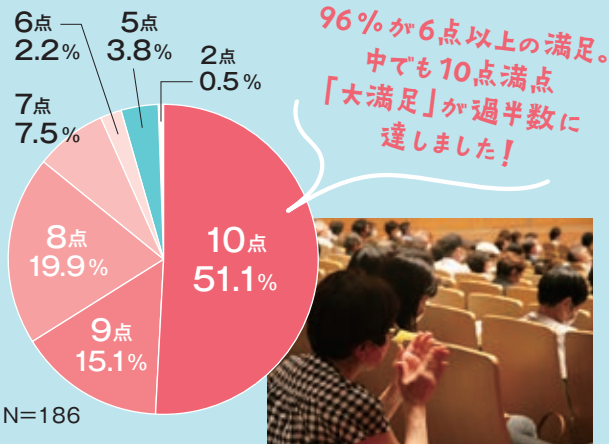
休憩時間に、しまたろう君のアコーディオンにあわせて講師・会場スタッフが観客と一緒に「幸せなら手をたたこう」で体を動かしてリフレッシュ!



ハワイエには実績や社史の展示、また、当ひろっばや、講師陣が登場する医療情報のチラシも自由に持ち帰れるよう設置し、こちらも好評だった。

満足度調査

10点・・・5点・・・0点
大満足 普通 不満



【アンケートより抜粋】

わかりやすく、また、たのしく見、聞かせてもらいました、ありがとうございました。／全テーマ分かりやすいです。最前線医療心強いと思います。／アコーディオン楽しく聞かせてもらいました。／難聴の為、行っても話がわからないと心配でしたが、映像、大きな字による説明で理解できた。

近森会グループ

統計コンサルタント 活動紹介

兵庫医科大学 看護学部
基盤看護学 准教授 博士(看護学)

井上 正隆 先生
いのうえ まさたか



2012年度から近森会で統計コンサルテーションをさせていただき、これまで、医師、リハビリスタッフ、薬剤師、看護師、事務職員など多くの皆さんにご利用いただいております。研究計画から、発表スライドへのコメント、統計ソフトの使い方、論文などご依頼内容も様々です。また、「統計はわからない」、「研究は初めて」という初心者の方から「チェックをよろしく」というベテランの先生方まで、ご依頼になる方にあわせてお手伝いさせていただきます。

コンサルテーションは、随時受け付けております。対面でのコンサルテーションが難しい状況ですが、メール、web会議、電話などご希望に沿うようにいたします。

また、毎月1テーマごとの動画をアップしております。また、秋と春に集中講座を開催しております。どうぞ、お気軽にお声がけください。

▶ 毎月配信しているYouTube統計動画
※閲覧方法は院内サイボウズ電子掲示板でご案内しています。



集中講座

来たる!

研究のはじめかたと
データ分析のコツ
-統計ソフトSPSSの使い方を含む-

10月7日(土) 12:30~14:00

※同日、コンサルテーションも14:00~15:00で実施

職員限定

【申込み】

院内サイボウズ電子掲示板にて、ご案内しています。詳細はそちらでご確認ください。

【担当】総務課広報係

消化器内科 Instagram 始めました。

@CHIKAMORI.GASTROENTEROLOGY





私の趣味

特別編

トカラ
吐噶喇の奇蹟近森病院 循環器内科 部長
三戸 森児 みとしんじ

ふりかえると船の後ろにとてつもなく大きな頭が水面から覗いていた。死力を尽くして海面に浮かんできたのは78.4kgの記録的巨大カンパチでした。

巨大魚を求めて、屋久島の南に位置する吐噶喇(トカラ)列島に以前から通っていました。天候に阻まれることも多く、自然を相手にすることですから、なかなか思うようにはなりません。釣りを続けるというのは辛くなかなかしんどいのですが(ほとんどの方にはご理解いただけません…)、やり続けていると稀にご褒美があります。まさに人生そのもの。

海に飛び込んで巨大カンパチとタイマンを張ったcrazyな船長、これまで自身の釣りに関わっていただいた全ての人々、そしてなによりも休暇を遠征に充てることをギリギリ許してくれているであろう家族に、紙面をかりて感謝申し上げます。

敬愛する開高氏のスケールには遠く及びませんが、幼少期から釣りを続けて、様々な釣りを経験しました。魚が大きければ良いというわけではありませんが、大物釣りをするには年齢的にもチャンスは限られています。体が壊れるまで続ける所存ですので、どうぞ皆様できれば温かい眼で見守ってやってください。

世界記録級を
釣り上げた!!三戸先生の詳しい
奮闘記はこちらへ
(明日丸webサイト)

FREE 私の○○

まるまる

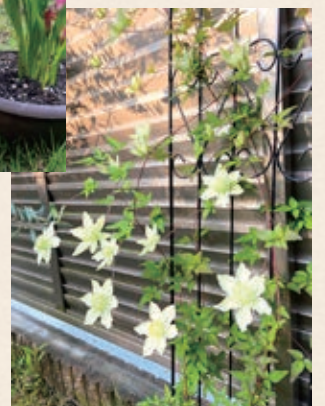
○○にフリーワードを入れて
語っていただきました

私の「日課」

近森病院 看護部長
吉永 富美 よしなが
ふみ

毎日、6時前に起きて庭の植物に水をやり、メダカに餌をやります。それから、ゴミ出しを行い、お弁当を作り、母のデイサービスの準備をします。今年の春、娘が県外の大学に行き、娘の世話や送り迎えがなくなったのですが、デイサービスで「いいおばあちゃん」を頑張った認知症の母は、帰って来るなり徘徊を始め、時には「足上げて!」「食べさせて!」「胸をトントンして!」等子供ようになります。おかげでやたら疲れますが、寂しくない毎日を送っています。

父が大切にしていた和風の庭を、手入れが大変なため築山や岩を撤去しました。今は草ボーボーで雑木林になっていますが、花いっぱいのおしゃれな庭にしたいなと思っています。



課外活動 受け入れ

スタッフのお子さんで、普段は遠くアメリカに住む高校生の杉本さんが、約2週間を近森病院でボランティアとして活動してくれました。受付業務から、ちょうど開催された公開県民講座(P.9参照)の準備まで、様々な仕事を熱心に手伝ってくれました。杉本さん、ありがとうございました!



近森病院でのボランティア活動

2023年7月18~28日

学生ボランティア **杉本 真瑠**さん
(高校1年生) すぎもと まる

私はアメリカに住んでいる高校生です。日本に久しぶりに帰ってきた夏休みに近森病院で短い間ですがボランティアをさせていただきました。

受付や支払いのマシンのお手伝い、イベントの片付けなどをしました。そのときに事務の人やお年寄りの方に「ありがとう」と言われたのが心に残っています。ボランティアの際、私に付いてもらう方にはいろいろなことを教えてもらい、本当にお世話になりました。なんとオペ室を見学させてもらい、生まれて初めて



手術をしているところをみました。

私が近森病院にいてびっくりしたのが病院を支えている人のその数です。色々な役割を持った人がたくさん働いていて、みんなが協力しあってこの病院を支えていることに感動しました。良い経験をさせていただき、本当にありがとうございました。



写真上／受付にてエスコート係を担当。
写真中／公開県民講座で「幸せなら手をたたこう」に出演。
写真下／一緒に日本に戻り、よさこいに参加したお母様と。

9/30(土) 学園祭 開催!

完全復活! 近森祭

近森病院附属看護学校 2年生 **北尾 愛月** きたお あづき

9月30日土曜日、数年ぶりに通常の学園祭が戻って来ます。今年は一般のお客さんも入ることができ、賑やかに開催予定です。3学年、初めての大規模な学園祭に戸惑いながらも、教職員と共に学生一同協力して準備を行なっています。

牛串や焼きそばなどのご飯物はもちろん、バザー、お化け屋敷が出店予定です。また、血圧測定や骨密度などの健康チェックや百歳体操、小さなお子さんが楽しめるキッズスペースやダンス、コンサートなどのイベントを考案しています。

当日は10時より開催します。ぜひ、当校へお越しください。

私たち
自治会メンバーが
中心となって企画
しています!



編集室通信

高知の夏によさこい熱波が戻ってきました。あいにくコロナ第9波到来もありチーム「ちかもり」は、本年度見合わされましたが、来年以降に清々しいブルーの風「チーム「ちかもり」」の出場となれば、この禍の一つの終止符となり、よさこいファンの喜びもことさらだと。その時を楽しみに待ちよります。 はりまやポビンス

診療数

令和5年7月

— 電子カルテ管理課 —

● 近森会グループ

外来患者数 16,184人
新入院患者数 1,005人
退院患者数 1,014人

● 近森病院(急性期)

平均在院日数 12.05日
地域医療支援病院 紹介率 94.16%
地域医療支援病院
逆紹介率 338.42%
救急車搬入件数 613件
うち入院件数 324件
手術件数 559件
うち手術室実施 357件
うち全身麻酔件数 250件

看護学校通信

和田 寿美 Sumi Wada

近森リハビリテーション病院
リハビリテーション部 臨床心理室
公認心理師 主任
NPO法人 脳損傷友の会高知青い空 副理事長
高知臨床心理協会 会計

聞き手／ひろっぱ編集部



聞く「プロとして
高次脳機能障害者に
寄り添う」

2018年から開始された国家資格「公認心理師」の試験では、近森会グループに在籍していた5名の臨床心理士全員が一発合格した。和田主任もその一人。現在は3名が精神科、2名がリハ病院に所属する。驚くことに、高知県内で心理士が在籍している回復期リハビリテーション病棟は近森のみ。話を聞けば聞くほど必要な職種と思うが、発展途上ようだ。また、担当する高次脳機能障害も、周囲の理解が得られにくい障害であり、それらの認知を広げる活動こそ、和田主任が取り組んでいることである。

高次脳機能障害への関わり

仕事は、脳損傷などで認知障害となった本人や家族を専門の見地から心理的にサポートすることだが、内容は多岐に渡る。院内で心理検査やカウンセリングをするだけでなく、今後の生活や円滑な対人関係の築き方を共に考えることも大切な業務。例えば、患者さんの職場復帰の際には、多職種と相談しながら、支援機関や職場へ同行し、本人と支援者の間で助言するなど本人の再適応をサポートする。

「関わった患者さんを一番理解する職種と思っています」。

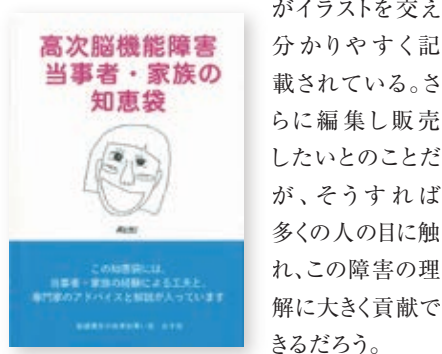
基本、柔らかな口調の和田主任が、はっきり断言したのが印象的だった。

NPO法人 脳損傷友の会高知青い空

これは、仲間と立ち上げた家族会が法人化したNPOで、現在、副理事長を務める。ここでは、脳損傷などの当事者と家族が語り合う場所となっているほか、高次脳機能

障害の正しい知識や情報提供を行っている。なかでも和田主任のライフワークになっているのが、この会

に属する「女子会」である。メンバーは当事者、家族、和田主任ら支援者で、現状報告や悩み、愚痴を話せるざっばらんな集まり。「いろいろあるけど、話しているうちに悩みに区切りがついたり、参加者同士の共感や助言をし合ったりする様子を見て、こちらが力をもらっています」。この女子会では、経験者の生の声を集めた本を発行している（下写真）。



祝！くそばばあ

生まれは愛媛県宇和島市で、実家はみかん農家である。自然豊かな場所で育ち自身もそんな場所で子育てをしたいと、高知市でも蛍舞う場所に居を構えた。現在、2人の息子さんも大学生となり一段落したようだが、心理士ならではの子育てアドバイスを



ご実家でみかん狩りをする息子さんたち。温州みかん、まどんな、せとかななどを栽培しており、院内にもご実家みかんのファンは多いそう。

聞いた。「子どもから『くそばばあ!』と言われたら赤飯を炊け、と先輩に教えてもらって」。おかげで、反抗期も割と落ち込むことなく成長を認め、乗り越えることができたとか。

話すことで解決策を見出せると信じて

この仕事の難しさは、人の話を聞くだけでなく、声にならない部分を汲み、物語やつながりとしてその人全体を理解することだという。「抱えているしんどさを自分の前で表してくれるのは、信頼してくださっているからこそ。それに応えるためにも聞く力が重要です。そしてその方が本来持っている解決や再適応への力を信じて、一緒に歩むことを大事にしています。また、今は支援する側ですが、反対の立場になることもあり得る、未来の自分や家族かもという感覚を持つことが大切だと思います」と語る。

仕事でもプライベートでも、気軽に話しかけてもらえるような態度や関係性を大事にしているというが、息子さんからは「人の話を聞かんねえ」と言われる一面も(笑)。

最後に和田主任の元気メソッドを。それは「ため息」。「同僚によくため息を指摘されるんですよ。そんな時は、これは『呼吸法』だと返します。ため息が出た後に大きく吸うと呼吸法になるでしょう」とプラス変換。疲れてため息がこぼれたら皆様もぜひ!

